

「大慈恩寺」

市では、市民の皆さんに市内の施設や発展状況を紹介し、市政に対する認識と理解を深めてもらおうと、毎年4回、施設見学会を開催しています。「施設見学会紙上ツアー」では、今までに見学した施設から、好評だった見学先にスポットライトを当て、皆さんに紹介します。



緑深い木々に囲まれた大慈恩寺

大慈恩寺は天平宝字5(761)年、奈良の唐招提寺を開いた鑑真によって創建されたと伝えられています。

当初、寺の名称は慈恩寺でしたが、明徳2(1391)年に後小松天皇から「大」の字を冠することを許され、以後大慈恩寺と呼ばれるようになりました。

2つある山門のうち、勅使門と呼ばれる門は、香取神宮に参拝する天皇の使者が立ち寄るときだけ開かれるもので、普段は閉じられています。門には十六花弁

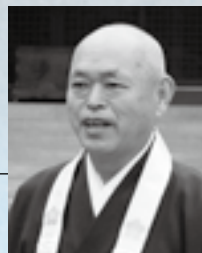
の菊紋が彫られ、皇室との強い結びつきを物語っています。

室町時代初頭、足利尊氏の弟・直義が、この寺を幕府の祈願所とし、後醍醐天皇や南北朝の内乱の犠牲者の冥福を祈るための利生塔を建立。この塔は全国66カ国に1塔ずつ建立され、下総国では大慈恩寺が選ばれたのです。こうして北総地域有数の寺院として全盛を誇りました。

江戸時代には御朱印寺として格式を与えられ、地方文化の中心として栄えました。

見どころを教えてください!

大慈恩寺 副住職に聞きました



副住職

宮内 豊俊さん

本堂には500年以上前に作られた釈迦如来立像が安置されています。そして、当時の繁栄を物語るように、大慈恩寺には多くの貴重な文化財が残されています。境内では、梵鐘(県指定文化財)、板碑群(市指定文化財)、利生塔礎石群(市指定文化財)をご覧ください。

また、季節ごとに境内の異なる表情を楽しめます。4月は4種類の桜、6月はアジサイ、2月は梅といった季節の花に加え、11月には紅葉があります。樹齢900年以上のカエデの大木が葉を赤く染める姿に感動すると思います。



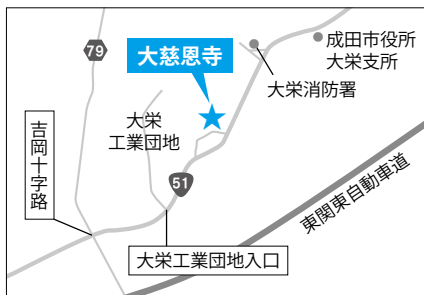
勅使門と樹齢900年を超えるカエデの木

見学したい人は

参詣はいつでもできます。本堂内を見学したい場合には事前に連絡してください。

参詣料=無料

※くわしくは大慈恩寺(☎73-5634)へ。



住所: 吉岡183-1

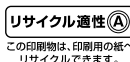
編集後記

4月1日付け人事異動で広報なりたの編集スタッフにも入れ替わりがありました。それぞれが担当するページも変わり、慣れない作業に戸惑う様子もちりほり。新しい体制で編集した第1号が本号です。また異動の結果、スタッフの男女構成比率が1対1になりました。今後は女性ならではの視点からの記事が増えるかもしれません。広報なりたの紙面に新しい風を吹き込んでくれることを期待したいと思います。

平成26年5月15日号 No.1267

成田市のホームページ

<http://www.city.narita.chiba.jp>



広報なりたは、グリーン購入法に基づく基本方針の判断基準を満たす用紙、誰にでも読みやすいUD(ユニバーサルデザイン)フォントを使用しています。